

卒業生の近況報告

看護師

国立長寿医療研究センター

本庄 亜衣さん (5期生)



私は、もの忘れ病棟（認知症対応病棟）に勤務しています。病棟の特徴として、幅広い疾患や治療に対する看護をする必要があり、かつ、中等度以上の認知症の行動・心理症状（BPSD症状）が強い患者さんが多いことが挙げられます。

人間環境大学看護学部在学中には、認知症看護に興味があり、認知症看護強化プログラムを選択していたため、認知症について学びを深めることができました。現在はその学びを活かして働くことができ、充実した日々を送っています。

就職して3ヶ月が経ち、BPSDへの対応など戸惑うことや分からないことも多くありますが、患者さんとの関わりや先輩方からのアドバイスで多くの気づきを得ることができています。また、学生の時には出来なかったケアも就職してから自立に向けて技術チェックを進め、1人の看護師として提供出来るケアが増えてきたことも喜びの1つです。しかし、受け持ち患者さんも増えてきて、清潔ケアなどの最低限やるべき事だけで1日の業務が終わってしまうという現状があり、受け持ち患者さん全員と深い関わりを持つことや患者さん1人1人に個性のある看護を提供することの難しさを実感しています。不甲斐なさを感じることもありますが、自分がどのような看護師になりたいのかという初心を忘れずに日々頑張っています。

5期生の皆さん、これからも一緒に頑張っていきたいと思います。



助産師

日本赤十字社愛知医療センター第二病院

八木 愛実香さん (3期生)



私は、助産師としてNICUで勤務しています。NICUには、多胎妊娠、先天性疾患、切迫早産、分娩時異常による母子搬送など、生命危機にある新生児が毎日入院してきます。ディベロップメンタルケアを大切にしている、赤ちゃんに合ったポジショニングや、ケアのタイミングを工夫するなど、赤ちゃんの安全と安楽を最優先に考えて看護を行っています。

手のひらに収まるほど小さい赤ちゃんや、たくさんの機器につながれた赤ちゃんに触れることはすごく緊張しますが、こまめに相談でき、丁寧に教えてくださる環境が整っている事で、安全にケアを行うことができています。また、NICUでは赤ちゃんのご両親が面会に来て育児技術や直接母乳を実施しています。

大学院で産後のお母さんの心身の状態や家族支援について詳しく学んできたからこそ、ご家族に対しても寄り添う意識を持って関わっていると思います。特に、直接母乳の指導は先輩看護師から依頼されることもあり、助産師がNICUにも必要であることを実感しています。助産師として、正常分娩だけでなく異常分娩で出生した新生児・ご家族と関わっていることは大きな経験だと思うので、たくさん吸収していきたいと思っています。

看護師3年目を迎えている方も多い3期生の皆さん、これからも一緒に頑張りましょう。



養護教諭

北海道新篠津高等養護学校

加藤 未蓮亜さん (5期生)



養護学校は現在は特別支援学校と呼ばれ、メンタルヘルスやアレルギー疾患など現代の子どもが抱える健康課題の多様化により、特別な配慮や医療機関との連携が求められています。

私は、はじめての学校という現場で分からないことが多く忙しい毎日を送っています。生徒の体調不良・ケガへの対応、保健指導と幅広く対応する中で、生徒に起こる問題を自分自身の問題として捉えられるような関わりを心がけています。例えば、人間関係等の問題では、原因とその場ですべき対応を生徒と一緒に考えるようにしています。自分自身の健康を考えることは一次予防となり、その後の心身の健康問題の重症化を予防できると意図しています。

しかし、一見、元気にみえる生徒も、家庭の問題や心の問題、全てを理解できるわけではないことに難しさを感じています。他の教職員と協力しながら、生徒のひとりひとりの個性を尊重し寄り添うことで、その生徒に合った対応の仕方を慎重に考え行動しています。

仕事は大変ですが、他の教職員と連携し、生徒みんなの笑顔を導けるような養護教諭になりたいと思います。

5期生のみなさん、体調に気を付けて仕事頑張りましょう！



保健師

美浜町役場

中川 亜美さん (4期生)



私が働いている職場は年齢に関係なくいろいろな意見を言い合い、助け合いながら仕事を行える職場です。新しいことにも取り組みやすい環境で、最近では沐浴や妊婦体験などのパパママ教室で行っている内容の一部について、多くの方に知ってもらえるように、YouTube用の動画を作成しました。保健師という立場で働いていくうちに、人によって抱えている問題は様々であり、解決のためには個性性を考えたサポートが必要であるということに改めて実感しました。育児不安で自分から悩みを相談してくれる人や、なかなか言い出せない人、問題に気づいていない人、保健師側が問題視していることと本人が問題視していることが異なる人など様々な方がいて、問題を解決もしくは改善していくために、その人にあった方法を模索する必要があることが分かりました。

まだまだ経験不足であるため、どうすればいいのか分からない時もありますが、周りの人に助けをもらいながら仕事をしています。保健師は、予防という視点から仕事をしているため色々考えることはありますがとても楽しい仕事です。



人間環境大学看護学部

同窓会会報

vol.5

2023年9月発行

人間環境大学看護学部同窓会

事務局：〒474-0035 愛知県大府市江端町3-220

ホームページ：<https://www.uhe.ac.jp/user/graduate.html>

ご挨拶

会員の皆様へ

同窓会会長 林 優里 (3期生)

日頃から人間環境大学看護学部同窓会の活動にご理解とご協力を頂き、心から感謝申し上げます。人間環境大学看護学部同窓会会長林優里と申します。看護学部3期生として2020年に本学を卒業し、愛知厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院産婦人科、混合病棟にて3年目看護師として勤務しております。徐々に1人の看護師として自立していく状況に強い責任を感じつつ、誕生する新しい命に対し、全力で向き合う家族をサポートすることに日々やりがいを感じております。

今年5月8日より新型コロナウイルスが5類感染症に移行して、社会の規制が大幅に緩和し感染拡大前の生活に戻り始めました。医療現場や地域保健に従事されている同窓会会員皆様におかれましては、引き続き感染拡大を防止しつつ、これまでどの対応の変化に大変ご苦労をされていることと存じます。

昨年度のホームカミングデーでは3年ぶりに完全対面式での開催となりました。ともに卒業した仲間やお世話になった教職員の方々と対面で過ごした時間はとても感慨深く、改めて直接話すことの重要性を感じた機会となりました。

今年度は新たに4名の同窓会役員を迎える予定です。同窓会では、日々張り詰めた医療・保健現場で勤務されている同窓会会員の皆様が少しでも気分転換となるような企画を実行していきたいと考えています。

活動において様々な課題はありますが、同窓会会員の皆様からご助言を頂きながら、より一層同窓会を活性化してまいりますので、引き続き同窓会へのご支援とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

同窓生の皆様へ

人間環境大学看護学部 学部長 篠崎 恵美子

同窓生の皆様、お元気でしょうか。時が過ぎるのはあっという間で、2019年にパンデミックとなったCOVID-19との生活にも慣れ、今年は2類から5類へ移行し新たなフェーズを迎えています。

さて、本学部では2023年春に5期生が巣立っていきました。そして新たに9期生が入学しました。ここ数年で実習施設において卒業生の働く姿に心強く感じることや、結婚・出産というニュースも耳にすることが増えてきました。卒業生の中には、大学院生として、本学で再び学びを開始する方もいます。皆さんが各々の自己実現に向かっていくことを頼もしく、また嬉しく思います。

ところで皆さんは自分のことを大切にしていますか。ヴァージニア・ヘンダーソンは「自らを知ることは、他者を知ることの土台であり、自尊の念は他者を敬うことの基本である事は、過去においてもそうであったように、今も事実であり、おそらく未来においてもそうであろう」と述べています。つまり、自分のことをよく理解していない人は患者さんのこともよくわからない、自分を大切にすることというのは、相手も大切にできるということである、ということをお述べているのです。看護を実践していくなかで、嬉しいことや良いことばかりではありません。これはどんな職業においても同じですが、看護という仕事は「感情労働」と言われるように他の職業より、感情や感情表現をうまく管理する必要があります。だからこそ、自分のことも大切にしたいと考えています。

人間環境大学看護学部には、キャリア・デザイン支援室があります。ここは卒業生である皆さんも活用することが可能です。また、大学院看護学研究科博士前期課程があります。研究・教育のほかに、助産師の資格を取得できる助産学実践コースや、教職課程専修免許状が取得できるコースなどがあります。自分のキャリアに迷ったときなど気軽に相談にきてください。

人間環境大学看護学部の教職員一同は、いつでも皆さんを応援しています。大学で皆さんを待っています。

人間環境大学看護学部同窓会ホームページ (<https://www.uhe.ac.jp/user/graduate.html>) を随時更新しています。

卒業生へのお知らせ、過去の総会や会報誌を閲覧することができますので、ぜひご利用ください。

2023～2024年度同窓会新役員候補者の挨拶



名古屋大学医学部附属病院 小児内科 **加藤 梨乃**さん (5期生)

この度、人間環境大学看護学部同窓会新役員に選出いただきました加藤梨乃です。私は小児内科病棟に勤務しています。当科では、血液疾患のために長期入院を伴う患者さんが多く、化学療法や免疫抑制療法、幹細胞移植などが行われています。本来、友達と地元の幼稚園や学校に登校して授業を受けているはずの子ども達が多く入院しています。院内学級もありますが、治療に伴う行動制限や副作用により断念することも少なくないです。また、侵襲的な処置や予後が良いと言えない疾患も多く、家族も含め身体的・精神的苦痛の多い環境です。病棟の先輩方やCLS（チャイルドドライフスペシャリスト）の助言を頂きつつ、患者さんやその家族の生活を第一に看護を実践しています。

多くの学びを吸収し、私の望む看護師像となるよう精一杯頑張ります！今後、同窓会役員として不安はありますが、先輩方や教職員の方々からの助言を頂きつつ頑張ります！皆さんと直接お話をしたいので、ぜひ同窓会総会・ホームカミングデーに参加してください。みなさんに会えることを楽しみにしています！



藤田医科大学病院 脳卒中科 **高橋 未羽**さん (5期生)

この度、人間環境大学看護学部同窓会新役員に選出いただきました高橋未羽です。私は現在、脳卒中科・脊椎外科の病棟で勤務しています。脳卒中後の患者さんや手術目的はもちろん、2泊での検査のための入院がとても多い病棟です。脳卒中後の患者さんでは介護度が高く、また脊椎科では身体の大きい患者さんが多いです。そのため体力・力勝負の部分も大きく、ボディメカニクスの大切さを痛感しています。またケア等以外にも、カルテ入力や入退院・検査・手術のための書類準備などの事務仕事が多く、なかなか全てを業務時間内に調整して行うことができず焦る毎日です。しかし、色々ミスをしながらも、先輩方にわからないことやコツなどを聞きながら毎日頑張っています。

同窓会役員として今後先輩方、顧問の教職員の方々との協力しながら、皆さんが手に取り読んでいただけるような同窓会会報誌、足を運びたいと思っていただけるような同窓会総会・ホームカミングデーにしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



名古屋大学医学部附属病院 小児内科 **山邊 朱莉**さん (5期生)

この度、人間環境大学看護学部同窓会新役員に選出いただきました山邊朱莉です。私は現在、小児がん拠点病院としての役割をもつ大病院で小児内科に所属し、主に白血病や神経芽腫の子どもたちへの看護をさせていただいています。当科では、療養期間が短くても数か月、長いと年単位である子ども/家族が多くを占め、長期に渡る入院期間の中で治療開始～寛解まで深く関わることができます。長期治療だからこそバックグラウンドや治療経過を十分に理解する必要があり、子どもだけが看護の対象となるのではなく家族も含めた看護展開ができるように努めています。また、多くの抗がん剤や輸血を扱っており、学習することも多いですが部署の先輩方や多職種の方々に支えていただきながら同期と共に日々研鑽に励んでいます。

同窓会役員としてもまだまだ未熟ではありますが、同窓会役員の先輩方や先生方と協働し同窓会総会やホームカミングデーが卒業生の皆さまにとって良い思い出になるよう準備をしていきますのでご参加お待ちしております！



名古屋大学医学部附属病院 消化器外科 **吉沢 美咲**さん (5期生)

私は、胆肝臓の腫瘍を中心とする消化器外科病棟で勤務しています。外科病棟のため手術や検査が多く、初めは術式と検査内容を覚えるだけで精一杯でした。大学の頃から消化器に興味を持っていたため、希望の部署に配属され、日々勉強と看護技術の習得に頑張っています。また、手術やICU退室も多く、退室した直後からリハビリを開始するなど、患者さんの変化も目に見える速さです。これこそが私にとっての外科でのやりがいだと感じています。この病棟の特有な治療として、胆汁内服があります。胆汁の独特な匂いや味で、内服に苦痛を伴う患者さんも多いため、飲み方の工夫と一緒に考えるなど、継続内服ができるように看護しています。普段多忙な業務の中、個別性のある看護を実践することに難しさを感じる場面もたくさんあります。このように、検温やケアで訪室する際、患者さんと積極的にコミュニケーションを取るなど、患者さんとの信頼関係構築に心がけています。現在入職して3ヶ月となり、日々病棟の先輩方に支えていただきながら、より専門的な技術と知識を身につけ、自己成長につながるよう頑張っています。

今後同窓会役員として、先輩と教員の方々に助言をいただきながら、会員の皆さんにとってより良い思い出となるように頑張りたいと思います。同窓会総会・ホームカミングデーにぜひ参加してください！お待ちしております！

2023年

同窓会総会 & ホームカミングデーのご案内

いろいろな分野で働く同窓生同士、仕事の悩みを相談したり、懐かしい思い出話を楽しんだり、有意義な時間を一緒にすごしませんか。

皆さまの参加をお待ちしております。

<同窓会役員一同>

当日は、ぜひ大学祭もお楽しみください！



参加費無料・当日参加OK!

【日時】2023年10月21日(土) 13:00~15:00

【場所】人間環境大学 大府キャンパス 6F

【内容】第1部：同窓会総会
事業・決算報告、新役員・役員配置の報告、次年度の予算案・事業計画の提案など
第2部：ホームカミングデー
卒業生・教職員との交流
抽選会・記念撮影

【申し込み】右側のQRコードを読み取り、10月14日(土)までに送信してください。

【問い合わせ先】s-ichino@uhe.ac.jp



予約した方にはプレゼントあり



人間環境大学

大学院 看護学研究科

(博士前期課程・博士後期課程)

4つの分野(看護教育管理学、実践看護学、広域看護学、助産学)で、未来の看護を拓く!

グローバル社会の中で社会貢献と自己実現を目指す研究者・教育者・管理者を育成する。



大学院 看護学研究科長
教授 齋藤 恵美子
博士(看護学)。
名古屋大学大学院医学系研究科博士後期課程清瀬准学。専門は基礎看護学。
フィジカルアセスメント、コミュニケーション、療養患者を研究のテーマとしている。

博士前期課程

〈設置概要〉
●修業年限:2年 ●入学定員:20名
●学位:博士(看護学)修士(助産学)

博士後期課程

〈設置概要〉
●修業年限:3年 ●入学定員:8名
●学位:博士(看護学)博士(助産学)

看護学専攻

看護教育管理学分野

- 看護教育学領域
- 看護保健管理学領域
- エンド・オブ・ライフケア看護学領域
- 生涯発達看護学領域
- 地域看護学領域
- 国際保健看護学領域
- 〈博士前期課程〉 助産学研究コース
- 〈博士後期課程〉 助産学実践コース

実践看護学分野

広域看護学分野

助産学分野

令和6年度 大学院看護学研究科 入学試験日程 (博士前期課程・博士後期課程)

	出願期間	試験日	合格発表	試験内容
I期	令和5年 9月1日(金)～9月14日(木)	令和5年 9月23日(土・祝)	令和5年 9月28日(木)	〈博士前期課程〉 ①小論文 ②専門科目筆記試験 ③口述試験(研究計画)
II期	令和5年 11月1日(水)～11月15日(水)	令和5年 11月26日(日)	令和5年 12月1日(金)	〈博士後期課程〉 ①小論文・英文読解 ②専門科目筆記試験 ③口述試験(研究計画)
III期*	令和6年 1月4日(木)～1月11日(木)	令和6年 1月28日(日)	令和6年 2月1日(木)	

*定員を満たした場合には、募集を締め切ることがあります。各領域の募集状況募集状況については、入試・広報部までお問い合わせください。
【個別の入学資格審査により出願を希望する方は、申請期間前に必ず、本学入試・広報部入試課(TEL.0120-48-7812)までお問い合わせください。】

大学院入試個別相談 本学看護学研究科(博士前期課程・博士後期課程)について、教員が個別に説明・相談に応じます。*「助産師資格」や「養護教諭専修免許」についてもご相談ください。

申し込み方法 お電話にて申し込みください。(電話受付/平日9:00～17:00) TEL.0120-48-7812 (入試・広報部直通) その際に、氏名、連絡先(電話番号)、志望領域、相談希望日時と方法(来学もしくはオンライン*)をお伝えください。*オンラインは「Google Meet」/「Zoom」などのツールを使用します。

募集人員/ 博士前期課程:20名
博士後期課程:8名

